

議会からのお知らせ

議会情報をお伝えします。

このような状況から、排水対策は町全体で行うべきものであり、集落排水事業と町営浄化槽事業を一つの事業として捉え、応益負担の見地からも使用料金の均一化を行い、早期に収益の改善に着手すべきであると考えます。またその上で、多くの施設で処理人口が計画処理人口を大きく下回るといった人口減少等の社会情勢を鑑み、処理施設の統廃合や集落排水事業から町営浄化槽事業への転換等による経営の効率化を検討するなど、経営環境を改善するための抜本的な対策が必要であるとの結論に至りました。

最後に、愛南町の汚水処理人口普及率は47.4パーセントで、長年県下最下位となっており、普及率の向上は喫緊の課題となっています。そのため、公共水域の水質を保全し豊かな愛南町の自然を後世に引き継ぐためには、加入時に必要となる排水設備工事費等に対する補助金の引き上げや町営浄化槽事業の推進を図るだけでなく、現在問題となっている空き家・空き地を有効活用し、複数の家で合併処理浄化槽を設置し共同処理するなど、愛南町環境審議会に諮問し、広く町民の意見を聞き、議論検討していただきたいと思えます。

TOWNニュース

町のできごとをお伝えします。

12/3 詐欺被害の未然防止 感謝状贈呈式



愛媛
CATV
動画



▲特殊詐欺被害を未然に防いだ好岡真吾所長(中央)

愛南警察署で詐欺被害の未然防止に対する感謝状贈呈式があり、被害を未然に防いだJAえひめ南家串出張所の好岡真吾所長に感謝状が贈られました。

11月8日(月)の午後4時50分ごろに60代女性が、携帯電話で通話しながら来店し、ATMコーナーに向かいました。落ち着いた様子を不審に思った好岡所長が女性に声を掛けて電話を代わり、応対したことで還付金詐欺であることを看破し特殊詐欺被害を未然に防止しました。

感謝状を受け取った好岡さんは、「地元の方たちにこういう事件があることを知ってもらい、詐欺には気を付けないといけないことを再確認してほしい」と話しました。

12/4 品質向上を目指し 令和3年度愛媛県総合畜産共進会



◀肉牛の部で一等賞次席を受賞した池田一成さん

JAえひめアイパックス株式会社本社工場で、令和3年度愛媛県総合畜産共進会(肉牛の部)が開催されました。

総合畜産共進会は、家畜の改良と飼養技術を通じ、健全な畜産振興を目的として行われています。

今回、広見地区で畜産を営む池田一成かずなりさんが肉牛の部に出品し、一等賞次席に選ばれ優秀な成績を残しました。

今後の展望について池田さんは、「消費者の皆さまに「笑顔」と「幸せ」をお届けできるよう、これからも愛情込めて育てていきたいと思えます」と述べました。

12/7 生産意欲の向上を目指し 「ブロッコリー目揃え・品評会」を開催

JAえひめ南南宇和野菜選果場で「ブロッコリー目揃え・品評会」(JAえひめ南南宇和野菜部会主催)が開催されました。

同部会ではコロナ禍での需要減少や集中豪雨などによる出荷量減少問題などに対して、供給量と価格の安定を図る体制づくりに取り組んでいます。

生産者の栽培技術や意欲の向上、意見交換を行う懇親の場として今回の品評会を開催したと話す西川峰男(みねお)部会長は、「新しく生産を始めた人たちもいるので栽培面積は増えている。生産者の技術を上げ全体の売り上げを伸ばしていきたい」と話しました。



▲ブロッコリーの出来について意見交換する生産者の皆さん

12/10 ボランティア連絡会が地域の魅力を広めるイベント エスディーシーズ SDGsほりだしもん市

地域資源の活用や普及などを目的に12月10日(金)から2日間、プラザじょうへんで「SDGsほりだしもん市」(愛南町ボランティア連絡会主催)が開催されました。

平成27年の国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)で掲げられた17の国際目標の一つ、「持続可能な消費と生産」の理念に共感して開催され、衣類や食器などのリサイクル品、南宇和高校の花苗などが販売されました。

愛南町ボランティア連絡会の森岡真由美(まゆみ)会長は、「SDGsの取り組みとして、お客さんにはリサイクル品を買っていただき、物を大事に活用してほしい」と話しました。



▲リサイクル品を販売するボランティア連絡会の会員

12/15 救助技術の向上を図る 消防本部で救助練成会を実施

新しい資機材の導入を機に、救助活動の技術向上と隊員たちの教育を兼ねた救助練成会が愛南町消防本部で実施されました。

練成会は3日間にわたり行われ、この日は第1小隊8人の隊員が新しく取り入れられた編み構造ロープを使用した救助訓練を行いました。訓練は作業中に意識障害を起こし、宙づりになった傷病者や高所から地上の安全な場所への搬送など、さまざまな想定がされ、隊員たちは現場での的確な判断や対応ができるよう活動能力向上に努めました。



▲高所から低所の安全な場所へ搬送を行う隊員の皆さん



12/18 できた!を大切に FC今治のコーチ・選手によるサッカークリニック



愛媛
CATV
動画



▲参加者に基礎を指導する布山達朗ホームグロウンコーチ

FC今治のホームグロウンコーチを務める布山達朗さん(南宇和高校OB)によるサッカー教室、「FC今治サッカークリニック In愛南町」があげぼのグラウンドで開催されました。

この日は、FC今治のコーチや現役で活躍する山田貴文選手・市原亮太選手・岡田慎司選手も参加し、町内外の小学生約80人にドリブルやパス回しなどの基礎を1時間半にわたり指導しました。

クリニックの終盤には、コーチ・選手チーム対小学生チームの試合が行われ、プロの技術を間近で体感した参加者たちはサッカーの楽しさを改めて実感するとともに技術向上への意欲を見せていました。

12/19 女性を対象としたモニタリング あいなんエコツアーの「へんろ道を歩く」



▲松本課長補佐(左)からへんろ道の説明を受ける参加者の皆さん

愛南町の自然や歴史・文化など環境を生かした体験をもらう「あいなんエコツアー」の第5回目が行われ、町内の女性10人がへんろ道松尾峠を歩きました。

愛南町教育委員会生涯学習課の松本安紀彦課長補佐から伊予と土佐の国境にある松尾峠は重要な道であり、多い日には300人が通っていたこと、行き交う旅人の取り調べを行う番所や一休みするための茶屋があったことなどの説明を受けながら、約6キロメートルのへんろ道を歩きました。

参加者は、「松尾峠を歩くのは大変だったが、何百年も昔から続いている道だと思うと感慨深いものがあった」と感想を話しました。

12/25 福祉施設にマダイとブリを贈る 令和3年度町内福祉施設養殖魚プレゼント企画



愛媛
CATV
動画



▲魚を贈った愛南漁協の皆さんと自在園の皆さん

クリスマスに旬の養殖魚を食べてもらおうと、愛南漁協と久良漁協魚類養殖部会が町内7カ所の介護施設や障害者施設にマダイとブリをプレゼントしました。

愛南町の基幹産業、魚類養殖のPRを兼ね平成18年から毎年実施しているもので、朝水揚げしたばかりのマダイやブリを施設へ贈っています。

特別養護老人ホーム「自在園」を訪問した愛南漁協の立花ひろき弘樹組合長ら2人は、出迎えた入所者らにマダイ11匹とブリ2匹を手渡しました。施設内の自治会長を務める本多エミ子さんは、「今年もありがとうございました。私は魚が好きなので、頂けてうれしい」と感謝の言葉を述べました。